

導入展示室



深川ゆかりの人物や、深川の歴史について紹介しています。

常設展示室 ~江戸の町並み再現~



江戸時代末期(天保年間)の深川佐賀町の町並みを実物大で再現しています。一日の移り変わりを音と光で演出し、季節ごとに展示内容を替えていますので、一年を通してお楽しみいただけます。常設展示室の一角には、江戸や深川に関する展示や江東区の職人や芸能に関する映像コーナー等があります。

展示室観覧料

	個人	団体	障害者割引
大人	400円	300円	200円
子ども(小・中・高校生など)	50円	30円	20円

※一人1回につき。団体は、20名以上といたします。
※障害者手帳などを提示された方、及び、介護者1名は、割引となります。

開館時間

- ◎ 展示室 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◎ 小劇場/レクホール 午前9時～午後10時

休館日

- ◎ 年末年始
 - ◎ 第2・第4月曜日(祝日の場合は開館)
 - ◎ 設備点検・展示替えの際は、臨時休館いたします。
- ※ 駐車場の収容台数が少ないため、電車・バスなどをご利用ください。

© 笹井さゆり

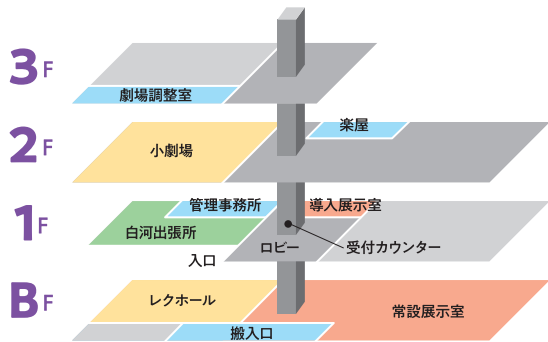


交通機関

- 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅下車 (A-3 出口より 徒歩3分)
- 東京メトロ半蔵門線 清澄庭園前下車 (徒歩3分)
- 都営バス 門33系統 清澄白河駅前下車 (徒歩4分)
- 都営バス 秋26系統 清澄白河駅下車 (徒歩4分)



館内ご案内



公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団

江東区深川江戸資料館

〒135-0021 東京都江東区白河1-3-28

TEL 03-3630-8625

FAX 03-3820-4379

HP <https://www.kcf.or.jp/fukagawa/>

日本語

Fukagawa Edo Museum



江東区 深川江戸資料館



深川 江戸

町並みマップ

どこからか…
鶏や雀の鳴き声、あさり売りの声、雨戸を開ける音、
時を知らせる鐘の音… 聴こえてきませんか？



干鰯・鰯粕(肥料)、
魚油(灯油)を扱う大店。

おお だん
大店(肥料問屋)

大店の
土蔵

つきごめや
春米屋

米問屋から米を仕入れて庶民
に売っています。唐臼という
器械で精米します。

船宿

猪牙舟を使って、船頭が人や荷物を
搬送します。飲食や宴会もできる
小料理屋のような場所です。

火の見櫓



町を火事から守るための
建物で、最上層には
半鐘がつるされており、
火の手が上がると
番人がこれを鳴らして
町に知らせます。

水上タクシー
猪牙舟

表通り

僕は
江戸の町並みの案内役
まめすけ
実助ニャン
階段の上から
深川の町並みを
眺めてみたいかい？
さあ江戸の町へ
タイムスリップ
町並みを
体験してみるニャン

八百屋

季節の野菜のほか、
漬物・こんにやく・卵
なども並んでいます。

長屋の住民の共同
スペースで、井戸・
便所・ごみ溜め・
稲荷社があります。

1 ぼてふり
棒手振

2 春米屋
の職人

3 船宿の
船頭

4 三味線の
師匠

5 木場の
木挽職人

長屋

火除け地

火事の時、火が次々と燃え移る
のを防ぐために設けられた広場。
水茶屋、天ぶら屋・二八そばの
屋台が集まっています。

長い家を壁で仕切っただけの庶民の
住む家。江戸では多くの人々が長屋
住まいでした。ここでは下の5家族
が暮らしています。

- 1 棒手振 政助
あさり・しじみのむきみを天秤
棒でかついで売るのが仕事
- 2 春米屋の職人 秀次
妻と小さな子どもの三人暮らし
- 3 船宿の船頭 松次郎
猪牙舟や荷船を扱う船頭
- 4 三味線の師匠 於し津
読み書き、手習い、裁縫も
教えている
- 5 木場の木挽職人 大吉
妻と二人暮らし
壁には商売道具の大鋸が
かかっている



干鰯・鰯粕・魚油問屋「多田屋」

八百屋「八百新」

春米屋「上総屋」

船宿「升田屋・相模屋」

「共同スペース」井戸・便所・稲荷社

「棒手振 政助」の住まい

「船宿の船頭 松次郎」の住まい

火の見櫓